

渡辺実 [200 年後も輝いて欲しい作品 賞]

コレクター・ドネーション

中山晃子

今回の 3331 ART FAIR において初見でありましたが、中山晃子さんの作品を選んでドネーションをさせていただきました。幾多の色彩が流動し渦巻いて持ち上がったたり飛び散ったりクローズアップやストップモーションがかけられて圧倒的異次元の画像が提示されていました。それは日常のリアルな情景を大きく超越し目眩がする体験というほどで、トーマス・ルフの作品を観るようなとめどない拡がりを想起できました。絵画の物理的構造を沸騰させてもはや收拾不能なほどにかき回してしまった途方もない視覚表現だと思いました。

渡部剛

該当なし

匿名 [01 賞]

コレクター・プライズ

西村雄輔 (体育館 / 3331 Arts Chiyoda)

『古事記』『日本書紀』では、イザナギ・イザナミが混沌とした大地を混ぜ、矛から滴り落ちたものが積もり、島となったと記述される。蜂蜜のはじめの滴りは、国産みの神話を思い起こさせた。液体の滴りはエロティックな連想も可能で、それが生命の始まりであることを示唆している。滴りとともにゆったりと流れる時間は、アーユルヴェーダにおける油の処方のようにもあり、それを受ける者が宇宙的な時間とともにあることを知らしめてくれる。単純でありながら大きなスケール感をもつ映像に魅かれた。

匿名

コレクター・ドネーション

浅井裕介

匿名

コレクター・ドネーション

渡邊拓也

各地で芸術祭が活発に行われ地域性がアートの主題となり都市のアートフェアではアートの市場価値が話題となる一方で、アートにとって巨大な盲点となっているのが郊外である。全国一律の均質空間である郊外は、地域性も都市性もなく、本来ならアートを生み出したはずのアイデンティティさえ真空蒸発してしまう場所なのかもしれない。アートの真空地帯ともいべき郊外を主題として、そこに生きる主体とは何かという問いに対し、カチッカチツと単調な音を立てて積み上がるタイルのように、延々と一つの答えを反復し続ける作品である。

匿名

該当なし